

第三者評価結果（児童養護施設）

※すべての評価細目（共通評価基準 45 項目・内容評価基準 41 項目）について、判断基準（a・b・c の 3 段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

共通評価基準（45 項目）

評価対象 I 養育・支援の基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
①	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・ ① ・c
<コメント> 法人や施設の運営理念、基本方針が明文化され、施設内文書やパンフレット、ホームページに記載されている。基本理念、養護・援助方針は項目毎に記載されているので、とてもわかりやすい。 職員周知については、年度当初に文書配布を行うとともに、研修会や職員会議等で周知を図っているが、子どもや保護者への周知が課題である。ホームページでも公開され、子どもの発達に応じて、日常的なコミュニケーションの中で説明を行う努力もなされているが、今後は、わかりやすい文書資料の作成や説明を工夫する等し、さらなる周知に向けた取り組みに期待したい。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
②	I-2-(1)-① 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・ ② ・c
<コメント> 児童養護施設の全般的な福祉動向については各種研修に参加する等して情報収集に努めている。また、地域団体の会議に参加する等し、地域のニーズ把握に努めている。今後、地域の潜在的ニーズについてさらなる収集に向けた取り組みに期待したい。		

③	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a・ ③ ・c
<p><コメント></p> <p>施設運営を取り巻く福祉動向や地域のニーズに応じて、対応した事業活動を行っている。現在、新養育ビジョンの発表等、児童養護施設を取り巻く制度動向や経営環境の変動期にある中、本年度は、小規模グループホーム化等、園舎全館を新築し、新たなスタートを切った年度である。今後とも、経営体質の強化の観点から、継続した効率化に向けた取組みに期待したい。</p>		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
④	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・ ④ ・c
<p><コメント></p> <p>今後の小規模ケア時代の園の運営や施設整備に関する中長期計画はあるが、より総合的な観点(人事労務、教育研修、安定経営、地域との関係、コンプライアンス、権利擁護、危機管理等)からの経営全般に渡るプランの策定に向けた取組みに期待する。</p>		
⑤	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・ ⑤ ・c
<p><コメント></p> <p>中・長期計画を踏まえた単年度の事業計画が策定されている。今年度は、中・長期的なビジョンのもと、施設の建物を全館新築し、グループホーム自治の体制でスタートしている。経営全般に渡り、具体性のある詳細な事業計画の策定については現在、取組みの途上である。今後の策定に向けた取組みに期待したい。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
⑥	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	⑥ ・b・c
<p><コメント></p> <p>各ホームの自治が確立されており、年度単位で、各部署の事業計画は職員参画のもとで策定され、職員会議等で話し合い、職員全体の理解促進に努めている。</p>		
⑦	I-3-(2)-② 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a・ ⑦ ・c
<p><コメント></p> <p>職員会議等、様々な機会を捉えて職員に伝えるとともに、ホームページで決算書類、事業報告、事業内容等について公開しているが、子どもや保護者への周知については不十分である。子どもや保護者には様々なバックグラウンドがあり、全体計画の共通理解が難しく、周知の取組みに改善の余地</p>		

がある。今後、保護者にも事業計画全体の要旨についてわかりやすい資料を作成する等、理解を促す工夫に向けた取り組みに期待したい。

I-4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>家庭的養護の理念のもと、各ホームの自治が確保された運営を基本としており、各家庭の暮らしがそれぞれ違うように、各ホームの持ち味を活かした運営を行っている。施設全体で自己評価を実施しており、今年度は第三者評価を実施し、職員全員で共有化をしている。また、子どもの尊厳を認め、自主性を大切にした養育・支援に努め、質の向上に取り組んでいる。</p> <p>小規模グループホームで、それぞれの自治での運営であり、園として、組織的にPDCAに基づく支援の質の向上に向けた取り組みの実践について、各ホームで共有する機会が少ないように思われる。各ホームが集まる全体会の回数を増やし、取り組みを共有化していく機会を増やすよう検討されたい。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>第三者評価を職員参画のもとで実施し、現状を共有化しているが、その分析や課題の明確化についての組織としての取り組みは不十分な状況にある。今後さらに、PDCAのプロセスを通じた組織的・計画的に評価結果の分析等を進める等、改善に向けた取り組みの推進に期待したい。</p>		

評価対象Ⅱ 施設の運営管理

Ⅱ-1 施設長の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 施設長の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>園長は児童養護施設運営の経験が豊かであり、その経験の蓄積からの知見や信念を有しており、自らの役割と責任を、職務分掌表等で明示するとともに、職員会議等で自らの運営方針や役割と責任を職員に表明している。</p>		

11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>法令遵守に努め、法令に係る研修会に参加し、研鑽を積んでいるが、遵守法令の職員への周知や組織としてのコンプライアンス体制の構築について取り組みについて改善の余地があると考え。今後とも、職員のコンプライアンス意識を高める取り組みとして、アクティブラーニング方式や小テスト等の職員参画型の研修の導入等、さらなる理解の浸透に向けた取り組みに期待したい。</p>		
Ⅱ-1-(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 養育・支援の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>常にリーダーシップを発揮し、園のあるべき方向性を職員に示し、職員の模範となるべく真摯に子どもと向き合い、支援に取り組んでいる。また、日常的な支援の現場や年度末の職員の支援のふり返りに助言・指導を行う等、支援の質の向上に向けた取り組みに指導力を発揮している。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>子どもの養育・支援の質の向上に人的資源を使っていきたいという考えがあり、経営改善については消極的な傾向がある。制度変動期にあつて、施設経営を取り巻く環境変化を読みにくい状況ではあるが、業務の標準化・効率化に努めるとともに、今後、会計事務所に経営分析の助言・指導を受ける等、更なる経営体質の強化に向けた取り組みに期待したい。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>人材不足が続く昨今、あらゆるチャネルを通じて採用活動を行っており、人材育成、人員配置の充実に向け、取り組んでいる。外部研修への参加や園内研修の実施等、職員の教育研修に力を入れているとともに、OJTを通して人材の定着に努めている。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>園長は人材採用や人員体制に関して確固とした考え方をもち、人事管理の方針を職員に示</p>		

<p>している。人事考課の客観的な基準の整備については改善の余地がある。今後、職員が将来のキャリアモデルを描けるキャリアパスを明確に示せるよう、法人の人事管理システムの構築に向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p>		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>職員の有給休暇の取得状況を定期的にチェックし、リフレッシュ休暇等、積極的に取得できるよう配慮している。また就業状況をチェックし、日々の業務の中で意向を把握し、分析・検討している。また、福利厚生センターへの加入や懇親会の実施など福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。今後とも継続して、ライフワークバランスを考慮した働きやすい職場環境づくりに向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</p>		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>職員一人ひとりとの面談の中で、職務に係るチャレンジ目標や課題を協議し、年度途中にはその進捗状況を把握、確認し、年度末に達成度の総括を行い、次年度の目標に反映させている。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>園長は、人材育成の重要性を意識しており、リーダーシップを発揮して職員研修の基本姿勢を示している。職位別・職種別の研修や様々な外部研修が実施されているが、研修計画の評価の観点から、次年度に向けた計画の見直しについて改善の余地がある。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>園全体での年間研修計画があり、職員が平等に研修を受講できる仕組みができているが、職員一人ひとりの能力アセスメントを踏まえた定期的な見直しについては今後の課題である。また研修について、座学に加えて、異なる現場実践を体験する機会の創出に向けた取り組みについても、今後の課題のひとつであると考えている。</p>		
<p>Ⅱ-2-(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。</p>		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a ・b・c
<p><コメント></p>		

「実習生の想いの芽を摘まない」との思いから、積極的に受け入れ、熱意ある指導を実施している。受け入れにあたっては養成校との連携を密にし、実習マニュアルに基づき、オリエンテーション、実習カンファレンス、評価の一連のプログラムを通して実習生の育成に努めている。

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	㉠・b・c
<コメント> 理念、基本方針、事業内容、事報告や決算書類等、施設運営に係るものはホームページ等を活用して情報公開している。また、地域に対しても分かりやすく機関紙に掲載し、地域に配布する等して広く広報に努めている。		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	㉠・b・c
<コメント> 公認会計士事務所による定期巡回指導を受け、事務、経理、取引等についてルール化している。		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	㉠・b・c
<コメント> 幼稚園・小学校・高校・特別支援学校等ときめ細やかな連携体制を取り、密接な交流を行っている。また地域に根ざした施設として日常的に地域の方々と密に交流を行っている。地域住民に対して様々な講演会活動やパンフレット、機関紙の配布活動等を通して、園の活動を知っていただくよう努めている。事業計画や通信の中で地域との関わりに触れており、またそれぞれの子どもの状況に応じて、積極的に地域の行事や活動に参加する等、地域交流に取り組んでいる。毎年、子どもたちが地域や関係者の方々を施設に招き、日頃の感謝を伝える「感謝祭」の活動を通じて、子どもたちが積極的に役割を持ち、地域との関わりを深めている。		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	㉠・b・c
<コメント> ボランティアについては基本姿勢を明文化し、ボランティアマニュアル、受付簿を整備し、多くのボランティアを積極的に受け入れている。ボランティアは学生から社会人まで幅広く関わっ		

<p>てもらっている。地域交流事業「ともだちひろば」では、多くのボランティアによる実行委員会が形成されている。</p>		
<p>Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。</p>		
25	Ⅱ-4-(2)-① 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・ ② ・c
<p><コメント></p> <p>各ホームそれぞれに地域の関係機関と連携を密にして、養育・支援活動を行っている。また、朝の連絡会や全体職員会議を通じて、情報共有を図っている。地域の社会資源（関係機関・団体等）のリスト化については、まだ改善の余地がある。今後、リスト化の充実にに向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</p>		
26	Ⅱ-4-(3)-① 施設が有する機能を地域に還元している。	① ・b・c
<p><コメント></p> <p>ホールが地域のサークル活動等で利用されており、施設は福祉避難所として開放する用意がある。また、地域校区内における清掃活動、地域の子育て相談・支援活動、トワイライトステイ事業、ホームフレンド事業、ショートステイ事業等を通して、園の機能を地域に還元している。</p>		
27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	① ・b・c
<p><コメント></p> <p>併設の子ども家庭支援センターと連携した相談事業や子どもの遊び場、地域活動等を行っている。また、オレンジリボン実行委員会の中心的な役割を担う等、社会的養護の役割を啓発し、地域の福祉ニーズに対応した活動を行っている。また、「家庭に代わる子ども達のお家」と考え、退所・卒園して成長した後もゲストハウスを活用する等して、実家、ふるさととしての役割を果たしている。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施

Ⅲ-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
<p>Ⅲ-1-(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。</p>		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した養育・支援提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	① ・b・c
<p><コメント></p> <p>子ども一人ひとりの個性を重んじ、尊重した養育・支援を行っている。子どもの権利擁護部会</p>		

<p>を立ち上げ、研修や園独自の権利ノートの作成を通じて、子どもの尊重や基本的人権への配慮について職員間で共通理解を持つ取り組みを行っている。</p>		
29	<p>Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援提供が行われている。</p>	<p>㉑・b・c</p>
<p><コメント></p> <p>グループホーム新築により個室化を実現し、外部講師を招いて研修を受ける等して、子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援に努めている。</p>		
<p>Ⅲ-1-(2) 養育・支援の提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。</p>		
30	<p>Ⅲ-1-(2)-① 子どもや保護者等に対して養育・支援選択に必要な情報を積極的に提供している。</p>	<p>㉑・b・c</p>
<p><コメント></p> <p>それぞれに入所の背景が異なるが、必要に応じて、その都度、丁寧な説明を行っている。また施設の利用希望者には見学も実施し、パンフレットなどを用いて具体的な情報提供を行っている。</p>		
31	<p>Ⅲ-1-(2)-② 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。</p>	<p>a・㉑・c</p>
<p><コメント></p> <p>入所の際には、子どもの不安を取り除くように、各ホームで職員や子どもたちみんなで温かく迎え入れる準備をしている。今後、わかりやすい説明資料の作成に向けた取り組みに期待したい。</p>		
32	<p>Ⅲ-1-(2)-③ 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。</p>	<p>㉑・b・c</p>
<p><コメント></p> <p>措置変更や地域・家庭への移行等にあたり、ファミリーソーシャルワーカーや自立支援員が中心となり、施設や保護者との相談対応や連携を行う等して、養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。また、実家としての機能を発揮し、いつでも関わりが持てるよう施設をオープンにしている。</p>		
<p>Ⅲ-1-(3) 子どもの満足の向上に努めている。</p>		
33	<p>Ⅲ-1-(3)-① 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p>	<p>a・㉑・c</p>
<p><コメント></p> <p>ホーム毎に、独自に家庭的で話しやすい雰囲気づくりをして、子どもたちの意向を把握し、子どもの希望に可能な限り対応できるよう支援に努めている。子どもの意向を把握するため、アンケートや満足度調査は実施していない。まずは食の満足感という観点で、嗜好調査等で具体化して実施している。満足度調査の定期的な実施や分析が今後の課題のひとつである。</p>		
<p>Ⅲ-1-(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。</p>		

34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・ ① ・c
<p><コメント></p> <p>苦情解決の仕組みはできており、家庭的な雰囲気づくりをして、職員誰にも話しやすい姿勢で、平素から子どもに絶えず目を向け接するよう心がけている。しかし、子どもへの資料配布や資料掲示については不十分である。今後は、苦情解決の仕組みについての資料の配布や掲示に向けた取り組みに期待したい。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a・ ① ・c
<p><コメント></p> <p>ホームの自治が確立しており、子どもが意見を述べやすいよう、各ホーム会で子どもたちの意見を吸い上げる等、誰でも気軽に相談できる体制ができています。今後、子ども向けにわかりやすい資料を作成する等、更なる周知に向けた取り組みに期待したい。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・ ① ・c
<p><コメント></p> <p>玄関や各ホームに鍵付きの意見箱を設置し、投書の意見に対応する等して信頼関係の構築に努めている。意見箱への投書はかなり多く、とても活用されている。しかし、意見対応マニュアルの整備が不十分であり、今後の取り組みに期待したい。</p>		
<p>Ⅲ-1-(5) 安心・安全な養育・支援の提供のための組織的な取組が行われている。</p>		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な養育・支援の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・ ① ・c
<p><コメント></p> <p>事故防止や等緊急時の危機管理マニュアルや不審者マニュアル等が整備され、職員に周知されている。ヒヤリハット収集を行っているが、評価分析が不十分であるので、園全体の取り組みとして、職員勉強会等を通じてその検討を充実されると良い。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・ ① ・c
<p><コメント></p> <p>感染症対策マニュアルを整備し、インフルエンザの予防接種や手洗い・うがいの励行等、流行時期には対策を立てているが、学習会の実施が不十分であるので、今後、その充実に向けた取り組みに期待したい。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	① ・b・c
<p><コメント></p>		

各ホームは、耐震構造の建物で新築されている。また、災害時の避難訓練や救急救命講習を実施する等、災害時における安全確保の体制ができています。災害時のための持ち出し用品や備蓄を準備し、緊急時には危機管理マニュアルに基づいてメーリングリストによる配信体制もできています。

Ⅲ-2 養育・支援の質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 提供する養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が提供されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>子どもへの養育・支援の方法について、常日頃から話し合いを持ち、検討を重ねてきている。個々のサービスの標準的な実施方法については、個々のサービスに応じた各種マニュアルを作成し、職員周知に努めているが、いくつかのマニュアルについては整備されていない等、まだ改善の余地がある。今後、体系的なマニュアルの整備に向けた取り組みに期待したい。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>職員会議等で話し合い、マニュアル類の定期的な見直しを図る仕組みの構築に向けた取り組みに期待したい。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより養育・支援実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な養育・支援実施計画を適切に策定している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>施設で統一された様式を用いてアセスメントを行い、検討会議を開いて自立支援計画票を作成している。アセスメント手法についてさらなる研鑽を積み、より高いレベルでのアセスメント実態に向けた取り組みに期待したい。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に養育・支援実施計画の評価・見直しを行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>自立支援計画は半年ごとに見直しされており、養育支援の実施状況も記録されている。今後、随時見直しの仕組みづくりについて検討されたい。</p>		
Ⅲ-2-(3) 養育・支援実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する養育・支援実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a・ b ・c

<コメント>

子どもに関する養育・支援実施状況の記録については、ICT化の推進により、データベースソフトが導入され、パソコンネットワークシステムの活用が始まっている。今後、さらなる活用に向けた取り組みに期待したい。

45

Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。

a・b・c

<コメント>

個人情報保護の観点から研修を実施し、職員は個人情報保護規程を遵守して記録する体制ができています。入所時には、保護者に対しても学校での写真撮影、新聞記事への配慮等を説明しています。また、ホームページでも個人情報保護方針を明示しています。今後、記録の管理の徹底についてさらなる取り組みに期待したい。

内容評価基準（41 項目）

※「共通評価基準評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施」の付加項目

A-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
A-1-(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		
A①	A-1-(1)-① 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>ホーム担当者会議と全体職員会議で、子どもと向き合う時の大切さを話し合っており、子どもの最善の利益を目指し、家庭的なホーム造り、安心できる場所として子どもたちを受容し、真摯に受け止めるよう努めている。常に子どもたちが求めているものを追求し、理解するよう努めている。</p>		
A②	A-1-(1)-② 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもたちが知りたいと思いつ時期が来るまで待つようにしている。子どもが捨てられたという思いを持たないように適切にフォローをしている。</p>		
A-1-(2) 権利についての説明		
A③	A-1-(2)-① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>権利ノートは、そのままでは活用の難しさがあるので、ノートの内容を踏まえて、毎日の生活の中で年齢に応じてわかりやすく説明している。職員間では、課題について権利擁護部会で話し合い、その内容について職員全体で共有している。今後ともわかりやすい説明に努められたい。</p>		
A-1-(3) 他者の尊重		
A④	A-1-(3)-① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>職員と子どもが個別的に触れ合う機会を多く持つことが、その子の他者への尊重につながるとして、一人ひとりの要望をできるだけ叶えるよう、個別的なかかわりを大切にしている。なかには、感情的に言葉を言ったり、相手に暴言を吐くこともあるが、他者への思いやりを持つよう根気強く伝えている。また、子どもが障がい有する有しないについて、特別視せず、それぞれの個性として捉え、みんなと一緒に生活していくことを支援している。</p>		

A-1-(4) 被措置児童等虐待対応		
A⑤	A-1-(4)-① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	㉠・c
<p><コメント></p> <p>就業規則の規程に体罰等の禁止についてのガイドラインがある。子どもとの信頼関係の構築に努め、体罰等の行動につながらないように心して支援に努めている。</p>		
A⑥	A-1-(4)-② 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	㉠・b・c
<p><コメント></p> <p>就業規則に則り、新人教育の中で、説明をし、不適切なかかわりの防止を徹底している。日常的に職員が子どもに対する支援の在り方について話し合う環境を整備したり、子どもたちには、身を守ることの大切な知識を学ぶ機会を設けている。</p>		
A⑦	A-1-(4)-③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	㉠・b・c
<p><コメント></p> <p>一時保護を含めて、常に最大限の受け入れ対応ができるよう体制を整備している。他の県内の児童養護施設と情報を共有しながら、迅速かつ誠実に受け入れ対応を行なっている。</p>		
A-1-(5) 思想や信教の自由の保障		
A⑧	A-1-(5)-① 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	㉠・b・c
<p><コメント></p> <p>当施設は、キリスト教による施設であるが、その時々のお祈りや日曜礼拝は各個人に任せており、強制していない。思想や宗教については自由を保障している。</p>		
A-1-(6) 子どもの意向や主体性への配慮		
A⑨	A-1-(6)-① 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	㉠・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの中には施設にいること自体を否定している子もいるので、時間をかけ、ここにいることを理解し、受け止められるよう担当職員とファミリーソーシャルワーカーと連携を取り、本人の気持ちを十分把握しながら、きめ細やかな対応で支援している。</p>		
A⑩	A-1-(6)-② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	㉠・b・c
<p><コメント></p>		

<p>共に生活する観点で子どもの意見・意向を尊重しながら、各ホームごとに話し合い、生活改善についてやレクリエーション(海水浴、キャンプ、感謝祭の催し物等)について考え、ホーム代表の話し合いで決めている。</p>		
<p>A-1-(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活</p>		
A⑪	A-1-(7)-① 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの主体性・自主性や個性を最大限尊重した支援に努めており、子どもの要望に応じて、空手、サッカー、野球、スイミング、少年団、塾等通っている。また、自分の部屋でペットの生き物を育てている子もいる。テレビ鑑賞については小さい子と大きい子の見る時間帯を決める等、ルールを守って余暇を過ごしている。スキーに行こうと呼びかけても、アルバイト優先で参加をしない子もいるとのことである。</p>		
A⑫	A-1-(7)-② 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>小遣い帳は全員がつけている。また、購入品の相談に応じたり、計画的な貯蓄を促す等、経済観念を身につけるよう支援している。高校生の場合は、個人的にアルバイトをしており、貯蓄額が把握できていない所もある。さらに、自立に目標とした一人暮らしの生活体験のプログラムは実施していないので、自立に向けた生活体験プログラム実施に向けての取り組みに期待したい。</p>		
<p>A-1-(8) 継続性とアフターケア</p>		
A⑬	A-1-(8)-① 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>ファミリーソーシャルワーカー、子ども相談センター、児童家庭相談センター、学校等と連携し、復帰後の生活を支援している。本人が希望することを基本として、安心して生活が送れるように支援している。</p>		
A⑭	A-1-(8)-② できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>必要に応じて措置継続や措置延長を積極的に行う等、養育の継続性に配慮した対応に努めている。また、退所後の生活安定のために関係機関と連携しながらできる限りの支援を行っている。子どもの将来に対する希望ができるだけ叶えられるよう例えば、就職先を探したり、私学への進学支援も行う等、子どもの進路ニーズに合わせた支援を行っている。就労の定着等への支援にあたることにより、子どもの心身が安定した状態で、次の生活を開始できることを目指している。</p>		

A⑮	A-1-(8)-③ 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>退所後もいつでも相談できる窓口として、気軽に連絡できるように伝える等して支援している。退所後の職親や支援団体等の社会資源が少ないことが課題である。行政機関や福祉機関とは連携を図り、できる限りの支援を行っている。</p>		

A-2 養育・支援の質の確保

A-2-(1) 養育・支援の基本		
A⑯	A-2-(1)-① 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの人権を認め、日常会話や話し合いの中で子どもの気持ち、感情を受け止めている。なかなか気持ちを出せない子についても、コミュニケーションや「三つの家」方式等を活用し、意向を把握し、心理的把握に努めている。自立支援計画を子どもと一緒に立てることで、共に課題と向き合っている。</p>		
A⑰	A-2-(1)-② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>基本的欲求は、その子によって違いがあり、職員は常にグループ内でそれぞれの子に向き合うことで、子どもの意思を尊重し、信頼関係を構築していけるよう努めている。小さい子は夜、添い寝をし、安心して睡眠できるように配慮している。</p>		
A⑱	A-2-(1)-③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>どこまで見守るのかという点において、職員間でも価値観の違いがあるが、ホームの自治を大切にしており、それぞれホーム会で話し合っ決めて決める等、日常の中で対応している。子どもたちとは、その時々場面場面で、時には争い、葛藤しながら、解決方法を見出すとともに、社会的成長を促しつつ、子どもたちの気持ちを汲み取り、主体的な行動を支援している。今後は、ホームごとに意思統一やフォローや支援を研究テーマに上げ、組織の質の向上に努められたい。</p>		
A⑲	A-2-(1)-④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>個々の状況を把握し、それぞれに話し合いを行い、発達の状況に合わせた取り組みを行なっている</p>		

<p>が、発達段階に応じたプログラム化は整備されていない。今後とも整備に向けた取り組みに期待したい。小さい子の保育は、それぞれの発達過程や成長に配慮して実践している。また、小学校以上の子には学習部会の職員が指導している。子どもたちの学びには先生と二者懇談し、連携している。</p>		
A⑳	A-2-(1)-⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもたちには、自由に生き生きと生活してもらい、そして安心して生活できることを実感してもらうことを第一と感じている。そして、次にエチケット、マナー、ルールを教えるようにしている。職員と共に生活する中で自然と基本的な生活習慣、社会常識を身につけるよう支援している。地域社会への参加の機会に、社会的ルールを学べるように配慮している。</p>		
<p>A-2-(2) 食生活</p>		
A㉑	A-2-(2)-① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>食事視察では、それぞれのホームの台所で職員が食事の準備をしているのを見て、自ら調理や配膳を手伝う子どももいた。また大きい子が小さい子の世話ができるように席の配置に留意し、みんなで手分けして盛り付けや配膳を行い、ワイワイと話し合いながら食事を楽しんでいる様子が見て取れた。また、食事の盛り付けの量等、個人差に配慮し、部活やアルバイト等で帰りが遅くなる子には、温め直す等、食事は適時適温で提供できるように配慮されている。食事の後でも、自分で冷蔵庫にあるものを食べたり、ラーメンを作っているとのことである。</p>		
A㉒	A-2-(2)-② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>栄養士を交えての食育部会で、毎月献立を見直したり、食事を美味しく、楽しく食べてもらえるよう話し合っている。各ホームとも材料は同じであるが、調理、味付け、盛り付け等はそれぞれのホームに任されているので、各ホームとも調理の腕を振るって子どもたちの満足度を高めるよう努めている。</p>		
A㉓	A-2-(2)-③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもたちは稲刈りやイチゴ狩り、ジャガイモの収穫、みかん狩り等の体験を通し、食べる喜びや季節の作物の収穫を楽しんでいる。また、毎月1回は、手作りおやつを作っている。箸置きを置くことやランチョンマットを敷くこと等、食育部会から出された意見の基づき、実施している。台所が身近にあるので、調理をしながら、また食事をしながら日常的に食についての話を行っている。</p>		

A-2-(3) 衣生活		
A⑳	A-2-(3)-① 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>必要に応じて、自分の好みの衣服を買うことができるように支援している。必要に応じて買い物に出かけ、自分で衣服を選び、購入できる機会を設けている。子どもたちは、皆思い思いの衣服を着用したり、子どもの好みが大切にされていることが伺えた。</p>		

A-2-(4) 住生活		
A㉒	A-2-(4)-① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>ホームごとに約束やマニュアルがあり、自分の部屋は自分で掃除したり、清潔にできるよう声をかけたり、清掃の習慣が身につくようにしている。訪問時には、各ホームとも新築であり、とてもきれいに整備されていた。</p>		
A㉓	A-2-(4)-② 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>ホームの中で、小さい子は2人部屋になっているが、大きい子は自分の部屋があり、自分の好みで家具を置いたり、ペットを飼う等、自分の空間として自由な居室づくりができており、安心して過ごすことができる場所となるような配慮がされている。</p>		
A-2-(5) 健康と安全		
A㉔	A-2-(5)-① 発達段階に応じ、身体健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>常日頃から、子どもたちを見守り、声かけとする等して、子どもたちの身体健康について注意を払いつつ、健康管理について日常生活の中で、自然に身につくよう支援している。理美容については、定期的に美容師のボランティアをお願いしたり、大きい子は自分で美容院に行く等して、自己管理ができるよう支援している。</p>		
A㉕	A-2-(5)-② 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>嘱託医には、必要に応じて診察を受けており、時間外の対応もできる等、密な連携体制ができている。定期的な健康管理や医療、健康に関する知識を深めるための研修は特には実施していない。ノロウイルスに関し、吐しゃ物の処理等についても未実施なので、今後、実施に向け、検討されたい。</p>		

A-2-(6) 性に関する教育		
A②⑨	A-2-(6)-① 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a・ ② ・c
<p>＜コメント＞</p> <p>性教育部会があり、ホームごとに課題の確認はしている。個々の成長に合わせて、男性、女性職員それぞれが役割を持って対応している。性教育として特別に行っていないが、子どもの疑問や不安には丁寧に教えている。性教育について、日常生活の中で、子どもの発達段階に合わせたカリキュラムを用意する等、正しい性知識を学ぶ機会を設けるよう検討に向けた取り組みに期待したい。</p>		
A-2-(7) 自己領域の確保		
A③⑩	A-2-(7)-① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	① ・b・c
<p>＜コメント＞</p> <p>子どもが小さい頃から、自他の区別を教えている。小さい子は共有の物もあるが、日常生活用品のほとんどが個人所有である。日常から個人の物はそれぞれ大切にしよう声をかけし、年齢に応じ、イニシャル等を用いる等して、自己管理を支援している。</p>		
A③⑪	A-2-(7)-② 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a・ ② ・c
<p>＜コメント＞</p> <p>行事の時等、その都度写真を撮っているが、整理が追い付いていないのが現状である。卒園者には、アルバムにして持たせている。記録の充実のために、整理は行っているが、膨大な写真があり、特別に日にちを決めて整理に向けた取り組みに期待したい。</p>		
A-2-(8) 行動上の問題及び問題状況への対応		
A③⑫	A-2-(8)-① 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a・ ② ・c
<p>＜コメント＞</p> <p>問題行動への対応についての研修を行なっている。職員の子どもに対するリベラルな姿勢は暴力や不適応行動を生みにくい土壌になっていると思うが、一方で問題対応は各ホームの職員の技量によるところが大きいので、さらなる職員の支援技術の向上に向けた取り組みに期待したい。</p>		
A③⑬	A-2-(8)-② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a・ ② ・c
<p>＜コメント＞</p> <p>園内の子ども間の問題は基本的な対応は園長、主任が中心となってホームごとに解決できるようにしている。課題を持った子どもは子ども相談センターや警察と連携して対応している。</p>		
A③⑭	A-2-(8)-③ 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	① ・b・c

<コメント>		
<p>対応マニュアルを作成している。朝礼で情報交換を行っており、気になる事があった場合には、ファミリーソーシャルワーカーや上司に相談することになっている。職員同士、助け合って安全確保に取り組んでいる。</p>		
A-2-(9) 心理的ケア		
A⑳	A-2-(9)-① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a・ ㉑ ・c
<コメント>		
<p>自立支援計画と心理支援プログラムはそれぞれで策定されている。心理的支援が養育支援の中に組み込まれていない。ケース会議で取り上げられた子どものケアについては親や子ども相談センター等関係機関と連携して、対応している。</p>		
A-2-(10) 学習・進学支援、進路支援等		
A㉒	A-2-(10)-① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	㉓ ・b・c
<コメント>		
<p>学習指導担当の職員を採用し、子どもに週1回のペースで学習日を設けて、学習塾に通うことを援助したり、子ども一人ひとりの学力に応じた学習支援を行っている。</p>		
A㉔	A-2-(10)-② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	㉕ ・b・c
<コメント>		
<p>進路については、子ども相談センターと連携しながら、園の関係者等、様々なチャネルを通して、情報を得て、進学や就職等、進路について子どもと共に話し合って決めている。</p>		
A㉖		
A㉖	A-2-(10)-③ 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a・ ㉗ ・c
<コメント>		
<p>職場実習や職場体験等は実習先の拡充に取り組んでいるが、アルバイトについては、子ども自身で探して行っている。特に施設から協力事業所等との連携は行っていない。</p>		
A-2-(11) 施設と家族との信頼関係づくり		
A㉙	A-2-(11)-① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	㉚ ・b・c
<コメント>		
<p>家族からの相談対応は、家庭支援専門相談員が行っている。子どもにとって最善の利益になるよう施設全体で家族との信頼関係を築きながら、継続的な支援に取り組んでいる。</p>		

A-2-(12) 親子関係の再構築支援		
A⑩	A-2-(12)-① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>親子生活訓練室を活用し、子どもと共に生活できるかどうか職員も一緒になって段階を踏んで取り組んでいる。子ども相談センター等、関係機関と連携を取りながら、家族の養育力の向上に向けた取り組みを行なっている。</p>		
A-2-(13) スーパービジョン体制		
A⑪	A-2-(13)-① スーパービジョンの体制を確立し、施設の組織力の向上に取り組んでいる。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>主任、基幹的職員がスーパーバイザーの役を担っている。施設全体としては風通しの良さを大切にし、いつでも相談できる体制になっている。ホームごとに発生した様々な問題に対し、その時々で解決に至ってはいるが、真の解決に至っていない場合もあり、組織として根本的な解決策の検討が今後の課題である。職員間で連携が取れているので、そのチーム力で問題を対処し、施設全体の支援の質を向上させるような取り組みに期待する。</p>		